



「歓声が響くクライマックス」

15P

視察研修
ふるさと納税フル活用

12P

町政を問う
防犯カメラ設置を

5P

1月会議
商品券配布へ

2P

声を想いを
協力隊目線で



夢をカタチに



町の活性化へ

みなさんの「声を想いを」聴かせて

11月15日、地域おこし協力隊の1期生から7期生までの隊員12人が参加し、議会との意見交換会を行いました。生活での困りごとや今後の川崎町をテーマにワークショップ形式で意見交換し、その解決策などを話し合いました。さまざまな意見から、その一部を紹介します。

暮らしのなかで

移住したいが借家が足りない。あっても片づけが大変。

空き家バンクを使わないと補助金が出ない。

空き家を借りたが、土地が広く管理が大変。

未使用の山林を区分けして宅地とセットで貸してほしい。

放置土地が多くて草刈りが間に合わない。

行政区の決まりごとがもっと密に話し合いたい。

移住者と地元の方々の交流が少ないので、声が届きにくい。

高校通学の足が少なくて不安。

子どもたちの通学を車で送迎しなければならず大変。

土・日曜日に子どもを預ける場所がない。

買い物ができる店やコインランドリーが少ない。車を洗う場所がない。



▲これがボクらの考え

住み続けるために

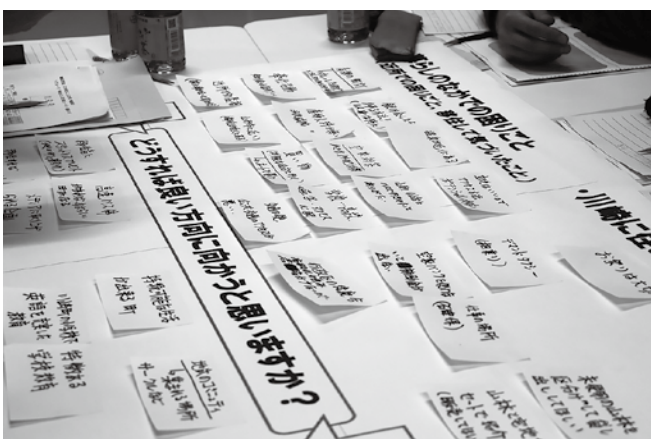
空き家を町で借り上げる定住促進住宅を増やすのがいい。

移住を考えて、単身者の住宅建設も進めてほしい。

青根のような、おしゃれな街路灯の整備が必要では。

高速バスが停車すれば買い物に便利になるのでは。

町民バスをもっとニーズに合わせて、デマンドバスや夜のタクシー運行も考えてみては。



▲これぞ移住者目線

産婦人科や眼科の診療を日程指定で実施してもらいたい。

子どもたちに自然体験の場を増やしてほしい。

小学生の英語教育を充実させてほしい。

働く場の確保や企業誘致のために町独自の制度を。

町の顔、支倉台の入り口周辺に町の案内など、イメージアップになる看板があるといいのでは。

観光の町の充実のため、スキー場を復活して。

振興公社をつくり、公共性のある仕事を担ってはどうか。

地域おこし協力隊

人口減少、過疎化に悩む地方の活性化を目的に、総務省が2009年に制度を導入し、当町では2017年から毎年採用しています。任用期間は3年間で現在は9人の隊員が活動しています。移住・定住の先導役として、地域の魅力・資源の再発見、新たな賑わいづくりに取り組んでいます。

地域おこし協力隊の皆さま、ありがとうございました。今回いただいた意見・要望は、町の発展に役立てるため、町政へ反映できるよう尽力いたします。



▲たくさんのアイデアや意見

12月会議

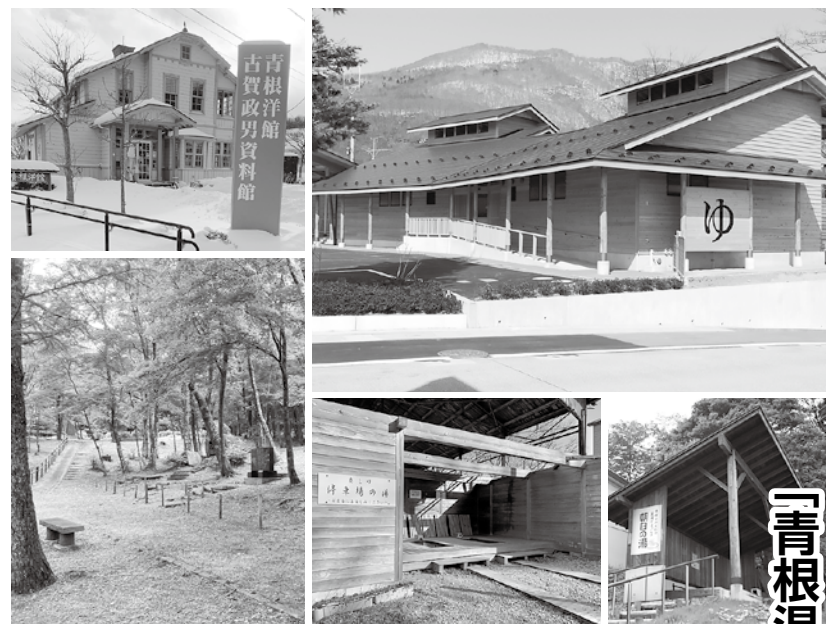
会議は、3日から6日に開きました。
提案された議案は、訴訟の和解案1件、指定管理者の指定案1件、条例等2件、補正予算案1件、人事案1件を慎重に審議し、原案とおり可決しました。
ここではその一部を紹介します。

すべて可決

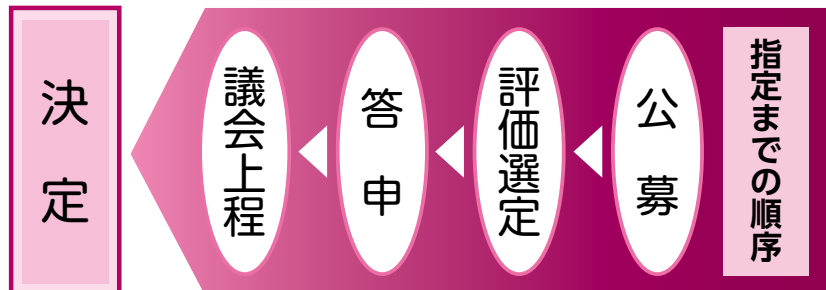
指定管理者決まる

じゃつぽの湯 他

「青根温泉区民の会」再指定



- 対象施設
 - ・公衆浴場
 - ・青根洋館
 - ・青根自然の森公園
 - ・足湯（停車場の湯・朝日の湯）
- 指定管理者
 - 一般社団法人 青根温泉区民の会
 - 代表理事 我妻伸一
- 指定管理料
 - 年間200万円
- 指定期間
 - 令和7年4月1日から5年間



人事案件

監査委員（新任）

きよづか まさひろ さん
（川内三）
令和7年1月1日から
令和10年12月31日までの
4年間

条例制定

提案理由

刑法等の一部を改正する法律等の施行に伴い、町条例にある「懲役」「禁錮」を「拘禁刑」に改めるものです。

改正条例

- ・川崎町一般職の職員の給与に関する条例
- ・し尿浄化槽管理業条例
- ・川崎町個人情報保護法施行条例
- ・川崎町議会の個人情報保護の保護に関する条例

一般会計補正

総額6935万円追加

庁内ネットワーク環境整備へ

290万円

■補正内容

国が定める標準化基準に適合した情報システムへの更新計画に伴い、各庁舎内における通信ケーブル類の更新工事に備えた調査設計業務委託料を計上するものです。



▲新たなデジタル化へ

障がい者医療等増額

3250万円

■補正内容

昨年度の実績見込み額で予算を計上していましたが、医療費、給付費が不足する見込みとなったことから、それぞれを計上するものです。

- ・心身障がい者医療費助成 550万円
- ・障がい者自立支援給付費 2700万円

1月会議

会議は、8日に開きました。
提案された議案は、財産の取得1件、条例改正等2件、補正予算案5件を慎重に審議し、原案とおり可決しました。
ここではその一部を紹介します。

一般会計補正

総額8836万円追加

商品券配布へ

4600万円

■補正内容

物価高騰対策として町民一人あたり5000円の商品券を発行するものです。発送は2月中旬から下旬を予定しています。



▲今回は500円券10枚で配布します

低所得世帯・子育て世帯支援へ

3362万円

■補正内容

物価高騰対策として低所得世帯・低所得子育て世帯への支援金を計上するものです。

■支援金

- ・低所得世帯 3万円
- ・低所得世帯の児童 1人 2万円



■改定後の支給率

	6月期	12月期
R6 期末手当	1.225月	1.225月⇒1.275月
勤勉手当	1.025月	1.025月⇒1.075月
R7 期末手当	1.225月⇒1.25月	1.275月⇒1.25月
以降 勤勉手当	1.025月⇒1.05月	1.075月⇒1.05月

条例改正

一般職の職員の給与に関する条例

■提案理由

人事院勧告に基づき一般職の月例給、期末手当、勤勉手当を改定するものです。

町政を問う

7人の議員が質問

一般質問は、町政全般の執行状況を質し、施策の提案や意見を述べ、時には是正を求め、町政をより良い方向へ導くものです。



- ◆ 下斗米 麻子 議員7
 - (1) 防災担当職員の現状
 - (2) 防災組織に女性の参画を
- ◆ 佐藤 昭光 議員8
 - (1) 川崎校のゆくえ
 - (2) 特殊詐欺の横行
- ◆ 佐藤 清隆 議員9
 - (1) 集落支援員の配置、検討を
- ◆ 的場 要 議員10
 - (1) ゼロカーボンシティ宣言推進
- ◆ 高橋 義則 議員11
 - (1) 人口減少対策は
 - (2) 商品券の販売と今後の対応は
- ◆ 佐藤 新一郎 議員12
 - (1) 防犯カメラの設置について
- ◆ 佐々木 昭雄 議員13
 - (1) 川崎中学校のトイレにおい対策
 - (2) マラソン大会の景観整備

問 防災体制の現状は

答 全職員ワンチームで対応

地域防災計画は、住民の多様なニーズに応える支援体制や地域防災組織の役割を重視しています。これから高齢化が進み、若者や女性リーダーの確保・育成と積極的な参加を進めることが課題です。

問 防災体制には中山間地としての特性や将来の気候変動を踏まえた柔軟な対応が求められます。防災担当職員の確保・育成が重要だと感じますが、現体制の人数は。

答 町長 平常時は防災担当職員2名、災害発生時は、規模に応じて4段階の体制を敷き、職員全員がワンチームで災害対応に努めています。

問 最大警戒時での男女の具体的な人数は。

答 町長 看護師や保育士なども含め、最大171名の全職員が協力して対応します。その際の男女比は男性が87名、女性が84名となっています。

問 防災組織に女性の参画を

答 意識高揚を図ります

問 当町では高齢化が進み、若年層のリーダー不足が課題です。今後、若者や女性がいーダーとして活躍できるよう、育成・確保の取り組みを強化し、より活発な地域防災組織を目指すべきでは。

答 町長 地域防災組織の女性や若者の参画は重要だと認識しています。小中学生向け防災教室の実施や婦人防火クラブの地区防災訓練への参加など、防災意識の高揚を図っています。



しもとまい 下斗米 麻子 議員



質問・答弁の動画は
←こちらから



▲みんなの手で避難所づくり



▲ゴミ袋を非常用トイレに



さとう しょうこう 議員 佐藤 昭光



質問・答弁の動画は
←こちらから

問 特殊サギ、当町では

答 1件8万円の被害

11月6日、宮城県警が仙台市を拠点とする特殊詐欺グループ29人を一斉逮捕しました。

問 当町の対策の現状と、町民へのアドバイスは。

答 町長

詐欺対策の電話購入に補助金を出しています。令和5年度15件、本年度は12月5日時点で12件の申請があります。「知らない人にお金や通帳を渡さない、誰かに相談する」など基本的なことをアドバースしています。

問 隣接大都市での大型事件に肝を冷やした町民も多かったと思いますが、当町での被害はありましたか。

答 町長

10月末現在で1件8万円の被害がありました。6月には大河原警察署管内で住宅リホームの高額支払い請求があり、LINEやSNSを通じて町民に注意を促しました。

問 特殊詐欺で町民が今後注意する点は。

答 総務課長

不審に思ったら、すぐ警察に連絡するのが一番です。

問

川崎校存続の手立ては

答

町挙げて手を尽くす

柴田農林高校川崎校は、令和7年4月から大河原産業高校川崎校に名称変更します。生徒減が続く厳しい環境のもと、存続支援の手立てを伺います。

問 町内の中学生数は今後も減り続けると思います。不安はありませんか。

答 教育長

令和20年度の県内卒業生は5年度より35%減るとみられます。町を挙げて存続を働きかけなければならない状況です。



▲楽しい触れ合い教育も

問 町内唯一の高校をなくすわけにはいきません。どんな手立てをしていますか。

答 教育長

赤石からスクールバスを運行して町外からの通学の利便性を図っています。同校は地域住民や小中学生たちと触れ合う教育の実践に力を注いでいて、町は毎年40万円程の学校管理費も支援しています。

問 柴田農林高校のために、当町は青根演習林を県に寄付しました。存続を望む町民の熱意にこたえる支援の在り方、努力を求めたいのですが。

答 教育長

特色ある川崎校のアピールに力を入れ、中学生の進路先に考えてもらうよう努めます。

問

集落支援員の配置を

答

地域ニーズを把握し検討

急激な人口減少や高齢化が進むなか、従来の地域活動の維持が途絶えたり困難になるなど、多くの課題を抱えています。新たな地域活動のあり方を、考え取り組んでいく時期にあると思います。

問 地域おこし協力隊に似た制度で、集落支援員制度があります。これまで地域に配置するなど検討してきませんか。

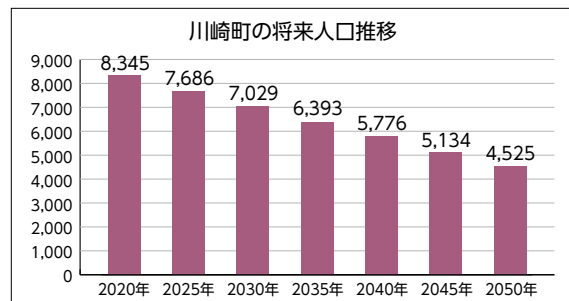
答 町長

平成29年度から地域おこし協力隊制度を活用し、移住支援など行いながら、地域の活性化など取り組んできた。集落支援員の配置は検討してきていません。

問 人口減少、高齢化が進む中において、地域活動が現状のまま十分機能していけると考えていますか。

答 町長

まちづくり懇談会でも、除草作業の人員確保や対応が高齢化により難しくなっている状況などの意見を伺っています。今後、地域活動が十分機能していけるとは、言い難い状況だと捉えています。



▲地域維持に支援員の力を



▲「つなげよう 地域のちから」

問 新たな地域の在り方を考えるうえで、集落支援員を配置する考えは。

答 町長

地域づくりは人づくりと言われるように、集落支援員がコーディネート的な役割を担える可能性を秘めています。地域のニーズを把握しながら、他市町の取り組みを参考に検討していきます。

問 新たな地域のあり方を考えるとき、主体はあくまで地域の方々ですが、行政も協働しながら考え取り組んでいる。行政として具体的なサポートや取り組みは考えていますか。

答 町長

地区懇談会でも改めて人手不足やなり手不足の意見が寄せられました。当町に合った支援制度を検討し、やれることは何でもやっていきたいと思っています。



さとう きよたか 議員 佐藤 清隆



質問・答弁の動画は
←こちらから



かなめ 議員
ま と ば 町 長



質問・答弁の動画は
←こちらから

問

カーボンニュートラル実現を

答

町が先頭を切るべき課題

2050年のカーボンニュートラル※実現に向けて、官民ともに脱炭素のための施策が求められています。当町も2023年3月6日に「ゼロカーボンシティ※宣言」をしています。ですが、これまでの取り組みについて伺います。

※カーボンニュートラル…温室効果ガスの排出量と吸収量を実質的にゼロにすること。

※ゼロカーボンシティ…再生可能エネルギーによって稼働される都市で、環境にやさしい。



▲民間設置も進むスタンド

問 二酸化炭素排出量の減少に向けた各事業とこれまでの実績は。

答 町 長

平成23年度より、県のみやぎ環境交付金を活用して、防犯灯や役場庁舎等の照明設備のLED化を行っています。本年度より新たな事業として、省エネ設備導入に係る助成制度を設け、温暖化対策に取り組んでいます。

問 充電スタンド設置に取り組み自治体が増加傾向にあります。当町でも検討できる事業であるとともに、公用車のEV化推進も併せて検討していく段階にあると考えますが。

答 町 長

町内の充電スタンドは十分ではないと考えます。今後、町内でもEV車を所有する方が増えてくると思われるので、そのタイミングで充電スタンド設置と公用車のEV化を検討したいと思っています。



▲脱炭素環境を推進

問 当町でも、役場の駐車場・職員駐車場、両方に急速スタンドを設置するべきと考えます。カーボンニュートラル実現は自治体が先頭を切って進めなくてはならないと考えますが。

答 町 長

やはり、役場が先頭を切るべき課題であると捉えています。しっかりと補助制度を調べて検討します。

問 EV車は電源としても活用できます。公用車をEV化すれば、災害時にも十分活躍してくれると思いますが。

答 総務課長

東日本大震災の経験から、避難所等に発電機を設置しています。EV車も移動式電源としても災害時に対応できると考えられますので、価格と相談しながら検討します。

問

人口減少対策を二丸で

答

やれることは何でも

当町の人口は年々減少しています。年齢別比率も高齢者の割合が高い現状を見ますと、早急に対策を講じる必要があります。

問 地域が維持できない状態のなか、人口減少対策は執行部と議会が一丸となり進めるべきと考えますが。

答 町 長

やれることは何でもやっていくという考えは変わりません。今後、中堅職員6人程を集め意見交換をしていこうと思っています。

問 ひとり親世帯が他市町村でも多く見けるが、その受け皿として支援制度を創設する考えは。

答 町 長

当町に興味を示し相談にこられるすべての方々にきめ細かな対応をしてきました。これから「ようこそ川崎町へ移住定住促進補助金」を積極的に活用しながら、移住定住対策を推進するスタンスです。

問

商品券は町民の意向も

答

より良い方法を模索

地元商店街の活性化と町民の物価高対策の支援としての3割増し商品券は好評でした。

問 来年度は多くの町民に商品券が行き届くよう、さらに効果があるものに進めるべきと考えますが。

答 町 長

5年前は2割増し商品券、今回は3割増し商品券を発売し、物価高騰対策や町内の経済効果のために実施してきました。商工会と改めて意見交換して課題を整理しながら進めていきます。

問 今回1000セット販売しましたが、この数で十分ですか。

答 町 長

予算にも限りがありますので今回並みの販売数は妥当であると判断しています。

問 交通弱者など商品券を買うことが困難な人もいます。町民の意向も聞きながら販売を考えるべきでは。

答 町 長

そういった方への販売方法について、担当者や商工会と意見交換しました。良い方法がないか模索しているところです。



よしのり 議員
たかはし 町 長



質問・答弁の動画は
←こちらから

川崎町		
人口と世帯数		
11月末日現在		
人	男	3,965名
	女	3,995名
口	計	7,960名
世帯数	3,424世帯	

▲人口は減少していくが…



▲町民と個人商店を支援



さき あきお 佐々木 昭雄 議員



質問・答弁の動画は
←こちらから

川崎中学校を訪問し子どもたちの教育衛生環境を調査しました。同校は建設から49年経過しており、トイレはオーバードロー型洗浄タイプです。4階西側の男子トイレは、においがひどく改善していない状況でした。

答

プッシュ型を検討

問

川中の男子トイレ対策

生徒数の減少もあり、校舎内すべての男子用小便器を改修するということは現実的でないかもしれません。使用するトイレ1カ所あたり2〜3台の便器にだけでもプッシュ型洗浄タイプを設置するなどの考えは。



▲より快適な環境を

すぐに現状を確認し子どもたちが安全に使用できるよう改善していきます。

答 町長

問 外の水道は砂が混じることあると聞きました。蛇口に浄水器の設置を検討しては。

問

マラソン大会コース整備

答

関係機関と協議



▲竹藪で湖面が見えにくいコース

湖畔沿いを走るランニングコースは、一部竹藪が生い茂っており、湖面が見えない場所があります。各関係機関・団体等の協力を得ながら整備すべきと考えますが。

答 町長

県道秋保温泉川崎線は県が管理し、湖畔側は釜房ダム管理所の管理となります。関係機関と協議し環境整備に努めていきます。

問 経済効果と参加者の人数の推移は。

答 生涯学習課長

大会の収入は約1100万円。経済効果はデジタルしていませんが、お振る舞いや消耗品、各種委託料などを町内の事業者等に支払っています。参加人数は令和元年度の1662人が最大で、今年度は1270人でした。

問

防犯カメラ設置と補助は

答

他市町村の動向見ながら



▲安全安心には欠かせない

今年8月にメガソーラー発電施設から銅線を盗んだカンボジア人が逮捕されました。その際に威力を発揮した防犯カメラについて、町の実情を伺います。

問 通学路や公園、交通量の多い道路などに設置する考えは。

答 町長

どこにどれくらい設置するか判断は難しいと考えています。設置費や維持管理費の面も含め検討します。



さとう しんいちろう 佐藤 新一郎 議員



質問・答弁の動画は
←こちらから

問 町内の防犯カメラ設置箇所や台数は。

答 町長

川崎小2台、第二小2台、富岡小1台、川崎中2台、富岡中1台、こども園3台の6施設合計で11台を設置しています。



▲通学路の安全確保に

問 防犯カメラ設置店舗からの協力体制は。

答 町長

大河原警察署に確認したところ、今回の事件や昨年の行方不明者捜索でも、各店舗の協力をいただいたとのこと。

問 防犯カメラ設置への補助金は考えていますか。

答 町長

防犯カメラは犯罪の未然防止や検挙への効果がある一方、プライバシー侵害やインターネットを通じてのデータ漏洩に不安を感じる人もいます。他市町村の動向を見ながら検討します。

問 ライブカメラで町の様子などを配信する考えは。

答 町長

仙台市が庁舎屋上などからライブ配信しているようです。当町の様子を配信すれば、防犯や観光振興につながると考えますが、需要や効果などを踏まえた検証が必要だと考えています。

問 当町は面積が広く、交番も夜は常駐していません。町民の安全・安心のために、当面2〜3カ所でも設置を考えては。

答 町長

必要性も感じていますが、時間をかけて検討していきます。

コロナ禍の影響で中止していた常任委員会による視察研修が6年ぶりに再会しました。産業建設教育常任委員会は12日・13日に栃木県那珂川町と福島県矢祭町を、総務民生常任委員会は17日・18日に茨城県境町と福島県大玉村を訪ねました。各々個性豊かなまちづくりで賑わいを創出しており、当町でも参考になる点が多々ありました。

産業建設教育常任委員会



▲充実した施設で生産

那珂川町 矢祭町

ホンモロコ・
イノシシ肉加工場

矢祭もったいない図書館



▲ホンモロコは特産品として販売

**栃木県那珂川町
休耕田を活用**
那珂川町のホンモロコは、地元高校水産科が平成22年に孵化・養殖に成功したことをきっかけに、翌年から休耕田を活用した養殖が始まりました。現在は5組合が養殖に取り組んでおり、令和5年度は年間730キが収穫されています。また、学校給食にも提供するなど、食育の教材としても活用しています。休耕田は養殖用に深く掘っていますが、転作扱いで活用しているとのこと。



▲町民の想いが詰まった図書館

30店で猪肉販売
イノシシ肉加工施設は、4名で皮剥などの解体作業から精肉加工まで一括して担っています。栃木県内唯一のイノシシ肉加工施設として、町内外の事業者30店舗にソーセージやステーキ肉などを販売しています。

**福島県矢祭町
48万冊が寄贈**
「矢祭もったいない図書館」は、町に書館も書店もなく、町立図書館の開設という多数の要望があったことから設立されました。武道館を改築した図書館には、全国から寄贈された本を中心に48万冊が備えられており、「読書の町」としての推進活動が頻繁に実施されています。

小学1年生から図書館や司書の仕事を学ぶ「こども司書」制度を全国で初めて導入し、読書への関心を高める活動も積極的に推進しています。

視察 研修

総務民生常任委員会



▲交通弱者には自動運転バスを運行

茨城県境町 自動運転バス運行

埼玉・千葉県の大都市に囲まれた地の利を生かし、移住・定住に全国の注目を集めています。170人余りの職員を擁する公社と町が一体になって特産の干し芋とウナギの返礼品を活用。令和5年度は99億円のふるさと納税を確保しました。

まず、路線バスが通らない道路でLINEで呼べる自動運転バスを運行、交通弱者に便利を図っています。指令室がリモートで運行を管理、現在は補助員が一人同乗して安全運転を図っています。



ふるさと納税
99億円フル活用

美しい景色残し人口増続く

境町 大玉村



▲さまざまな特産品の加工施設が

都心に通勤通学
子どもの医療費は20歳まで無料、小中学生の給食費無料などさまざまな子育て支援。また、東京駅まで90分の高速バスは都心への通勤通学を可能にしています。子育てや若者世代、単身者を中心に移住定住者は増えるばかり。

また、PFI※を施設づくりに採用し住宅団地の造成、企業誘致などを積極的に進めています。民間には公共施設を利用してもらって家賃をいただく「町の商法」は成果を上げています。

補助金もフル活用
ふるさと納税と、国の補助を活用して一般財源を使わない工夫で既に44億円の貯金ができたとす。

**福島県大玉村
子ども割合県内1**
安達太良山のふもとにある風光明媚な村。二本松、喜多方、会津、福島といった観光スポットに囲まれ、東北自動車道や新幹線が通る。地価が比較的安いいため、ベッドタウンとしての需要があり、長く人口増が続いている。

「美しい村」を誇りにしながら子育てで日本一を目指した施策や宅地造成にも力を入れ、バランスよく町づくりをしているのが印象的。人口8000人規模の自治体での子どもの割合は県内1だそう。

※PFI：民間の投資で運営まで任せる一括発注する公共事業。

総務民生常任委員会

調査日 11月7日

調査事項① シティプロモーション事業 事業検証のルール化を

【調査結果概要】
令和4年度に「地方創生交付金」を活用し、東京都をターゲットとした「シティプロモーション」用新聞広告掲載」や、ユーチューブ・ラジオを用いた「包括的シティプロモーション」を実施してきました。新聞広告でのプロモーションでは、掲載されてから12月末までのふるさと納税受入状況を加味すると一定の成果があると判断し、交付金がなくなった以降も継続して取り組んでいます。また、地元「大人の情報誌りらく」やアラバキロックフェス広告掲載業務もふるさと納税寄付額の増加を図ることを目的に取り組んでいます。



▲動画で話題提供

【委員会意見】

これまで国費で対応していた「シティプロモーション事業」は、令和5年度から町単独費での支出となつていきます。新聞広告でのプロモーション事業は、一定の成果があると判断されていることから、掲載日時の検討も考慮しながら取り組んでください。

「アラバキロックフェス」広告掲載業務の導入は今後も期待できることから、実績拡大に取り組んでください。また、事業開始から一定期間での検証をルール化し、費用対効果を分析していく手法も検討してください。

調査事項② 歯科口腔保健施策 引き続き意識向上対策を

【調査結果概要】
当町では、歯科保健事業の特色としてライフステージ毎に取り組みを行っています。特に乳幼児期・学齢期での「フッ素塗布」や「フッ素洗口」事業を早期に導入し、継続してきたこともあり、幼児・12歳児のむし歯本数の減少に素晴らしい効果が出ています。また、成人期（18歳～85歳）を対象に、負担金無料での成人歯科検診を実施しています。基本目標を「歯と口の健康を守り、80歳で20本の歯を維持しよう」とし、切れ目のない歯科口腔保健の推進に取り組んでいます。



▲目指せ！虫歯ゼロ

【委員会意見】

乳幼児期・学齢期については、歯磨き指導の徹底やフッ素物応用の効果的な対策の普及と継続が結果として表れています。全国平均や県平均と比較すると低い状況にあります。が、「むし歯保有者ゼロ」を目指し、さらなる乳幼児期の歯科保健対策の充実を図ってください。また、成人の口腔衛生に対する意識の向上が子どものむし歯予防にもつながります。高齢期・要介護者・障がい者（児）の口腔衛生保持・増進のために、今後受診しやすい健診体制に取り組んでください。

産業建設教育常任委員会

調査日 11月7日

調査事項① 有害鳥獣対策の現状 駆除と防除の両面から

【調査結果概要】
近年、イノシシやサルの生息域の拡大により、農作物等への被害が増加傾向です。農業従事者の営農意欲の衰退にもつながるなど、数字以上に深刻な影響を及ぼしています。町はこれまで農作物等への被害を防止するため、鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動への支援や侵入防止柵の設置助成など、さまざまな有害鳥獣対策を展開してきました。イノシシは豚熱感染の影響で捕獲数が一時減少していましたが、昨年度は増加しています。今年度にはサル捕獲用の囲いわなを4基設置するなど、有害鳥獣対策の推進に努めています。



▲新たな囲いわなに期待

【委員会意見】

有害鳥獣対策は当町のみならず、他市町村を含めた大きな課題です。県や関係機関、近隣自治体との情報共有と広域的な連携強化も重要となります。有害鳥獣による被害を減少させるには、鳥獣被害対策実施隊をはじめとする関係団体の協力を得ながら、捕獲活動の推進や新しい防除技術の検討、そしてそれらを活用した効率的な対策の実施が必要です。当町の主要産業である農業を守り、維持していくためにも、駆除と防除の両面から被害軽減の対策に努めてください。

調査事項② 学校給食共同調理場の現状 施設修繕や機器改修が課題

【調査結果概要】
学校給食共同調理場では町内の全小中学校の給食を一括して調理しており、毎日500食余りが調理されています。栄養バランスなどを考慮した給食は、児童生徒からも美味しいと好評です。また、日頃どのような給食を提供しているのか等、保護者などへSNSを活用して情報発信に努めています。一方で施設は平成2年に建設され34年が経過しており、施設の修繕



▲子どもたちの笑顔のために

【委員会意見】

給食は子どもたちの健康の保持・増進や体位の向上に役立ち、そして学校生活を豊かにし、社交性なども養うほか、健康的な食生活の大切さを学ぶ食育の場としても重要な役割を担っています。近年、物価高騰の影響で食材費も上昇しています。給食の質や量などのバランスは大切です。今後も安心で安全な給食が子どもたちに行き届くよう、施設の修繕や機器の改修、食材調達等の工夫に努めてください。

新たな架け橋 ふくらむ期待

仙台市・川崎町広域行政連絡協議会



待ち望まれる新たな架け橋（川崎町側）



明るい未来へふくらむ期待（仙台市側）

11月26日、国道286号バイパス建設予定地視察が開催され、仙台市側と当町側の進捗状況について説明がありました。現在、橋台と橋脚の工事が行われており、令和11年度の完成に向け順調に進んでいることを確認しました。

～ まちの声 ～

まちの活性化に期待

新しいバイパスができることで川崎町の印象が変わると思います。運転が苦手な人も気軽に訪れるキッカケとなり、まちの活性化が期待されます。



矢野 善和さん
(小野 41歳)

早期完成を望む！

赤石から川崎町は冬の事故が多く大きな障害となっていました。利便性がよくなり、移住者が増えることを期待します。免許返納前に一度は通行してみたい！



大宮 一男さん
(本荒町 72歳)

議会広報研究会

議会広報の基本と編集

11月5日、県自治会館で議会広報研究会が行われ、当議会から6名が参加しました。参加議員の報告から一部を紹介します。

主権者の育成に

佐々木昭雄 議員

多くの住民は議会が身近に感じられていないのが現状であり、議会の役割が理解されていない状況のなかで、議会広報の役割は非常に大きいものです。議会活動も住民が知らなければ評価はなきに等しく、議会広報は住民を主権者の育成に貢献するものです。

編集スキルを磨く

大本治久 議員

議会広報紙により情報を発信していますが、住民に十分に伝わっていません。住民に興味関心を持っていただくことは、政治参加を促すことになり、町の活性化に結び付くということになります。



議員講座

住民の代表として議会に向き合うために

1月15日、県自治会館で議員講座が行われ、当議会から9名が参加しました。参加議員の報告から一部を紹介します。

互いに高めあう

佐藤清隆 議員

議会の意識改革、議員の不信、議会活動の総量など、さまざまな角度から話を聞くことができましたが、そのなかでも「議員間で高め合うことが重要」ということが印象的でした。なり手不足、定数削減、議員報酬、欠員、無投票など、議員資質の問題はどこにでもあります。議員間で互いに高め合い、住民の代表として議会に向き合うレベルアップが必要だと強く感じました。

「代表」の本質

下斗米麻子 議員

「地方議会」という考え方は永田町から見た表現であることを批判されていたのが印象的でした。しかし「地方創生」や「ふるさと納税」などの表現は、東京一極集中を逆手に取った積極的な「地方」を意識するという意味では有意義であるとのことでした。住民から選ばれた議員と首長が議会の場で議論し合うことそのものが「代表」の本質であり、大切ということが心に残りました。



お知らせ

議会を傍聴して みませんか

議員は、議場でどんな発言をしているか。
また、どんなまちづくりを考えているか、
今後の町の方向性を直接聞くことができる
良い機会です。ぜひお越しください。

※次回の会議は3月4日(火)～13日(木)
一般質問は3月5日(水)・6日(木)
午前10時、再開の予定です。

議会ライブ中継 配信中

(傍聴者は12月会議9人、ライブ中継は
107アクセスでした。)

詳しくは議会事務局まで **TEL (0224) 84-2301**

掲載写真を募集します

本紙の「町の風景」(裏表紙)に掲載する
写真を町民の方より募集します。写真をご提
供いただける方は、議会事務局までご連絡を
お願いします。



※ご提供いただいた写真が必ず掲載となるものではありません。ご理解のうえでご提供願います。
※写真のタイトルは議会広聴・広報委員会で決定いたします。

町の風景



神秘の造形美

撮影場所：釜房湖畔

撮影：議会広聴・広報委員会

表紙の説明「歓声が響くクライマックス」

川中祭閉会行事にて

撮影：広報モニター 佐々木 和人さん

議会映像配信

議会の様子が
ご覧いただけます。



発行：川崎町議会
編集：議会広聴・広報委員会

〒989-1592
宮城県柴田郡川崎町大字前川字裏丁175番地1
TEL (0224) 84-2301・FAX 84-6789
E-mail: kawasaki2@town.kawasaki.miyagi.jp

印刷：株式会社ユーメテック